

委託事業実施内容報告書
平成27年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】
業務結果説明書

受託団体名 一社)グローバル人財サポート浜松

1. 事業名称

・多文化コンシェルジュの活躍による人と文化の多様性を活かした日本語教育プロジェクト

2. 事業の目的

・浜松市及び近郊に在住する高い日本語能力を有する外国人が、自国出身者コミュニティのリーダーとして日本人住民との良好な関係性を構築することのできるつなぎ役・懸け橋として活躍することで、双方の相互理解と交流を深化させて、日本人も外国人も共に行う「多様性を活かした持続可能な社会づくり」の一助となることを目的とする。また、在住外国人の多様なニーズに合う日本語教育の充実に向けて、多様な機関と共に体制整備を行う。

3. 事業内容の概要

・本事業は、既に活躍している外国人リーダーや多文化コンシェルジュになり得る人を対象に日本社会へより積極的に働きかけが行うことができる力を養成し、かつ外国人コミュニティの次世代を担う人材の育成を目指す。そのため、上記の目的を果たすために、以下のことを実施する。①高い日本語能力を有する外国人や外国につながる人を対象にした多文化コンシェルジュ育成講座、②いまだ日本語を学習したことのない外国人や何等かの理由で日本語学習を途中でやめてしまった外国人を対象に、母国語を活用した初期日本語学習が行える環境の整備(バイリンガルで学ぶ日本語教室の開設)、③平成26年度の多文化コンシェルジュのヒアリング調査より派生した日本語学習経験から外国人自らが考える「生活者としての外国人」のための日本語カリキュラム案を基に、早期日本社会適応のための初期日本語カリキュラム案の開発、④これからの地域社会づくりに向けて、日本人市民に対する意識啓発と外国人市民が自らの役割を再確認するためのシンポジウムを多文化コンシェルジュが企画し運営する形式で開催する。

4. 事業の実施体制について

・コーディネーターは、講師との折衝、関係機関との情報の収集・提供・共有を図り、外国人当事者が自ら発案し実践する事業として成果を見出せるようにしていく。また、事業の総責任者として、関わるすべての人と機関(行政・企業・学校)の連携・協働を進めていく。指導者として中核メンバーにあたる二名は、平成26年度の委託事業のなかで多文化コンシェルジュに対して日本語指導を行った者であり、受講者である外国人のニーズを的確に把握し、講座終了後の新たな日本語教室を外国人学習者主導で開催している。このことから、多文化コンシェルジュによる初期日本語カリキュラム開発を行ったり、新たな教室を開設する際に、外国人のニーズを十分に把握して、多文化コンシェルジュに対して指導や助言、協力を行っていく。

5. 運営委員会の開催について

【運営委員】

1	西原 鈴子	国際交流基金日本語国際センター
2	池上 重弘	静岡文化芸術大学
3	石塚 良明	浜松市企画調整部国際課
4	金城 アイコ	NPO法人アラッセ
5	堀 永乃	一般社団法人グローバル人財サポート浜松

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成27年4月14日(火)14:00～16:00	2時間	グローバル人財サポート浜松研修室	西原、池上、石塚、金城、堀	1. 事業計画の協議 2. 多文化コンシェルジュの活躍の場の創出について協議
2	平成27年12月21日(月)14:00～16:00	2時間	グローバル人財サポート浜松研修室	西原、池上、石塚、金城、堀	1. 事業中間報告 2. 中部協働センター事業報告 3. シンポジウムについての協議 4. 来年度事業に向けて
3	平成28年3月8日(火)14:00～16:00	2時間	グローバル人財サポート浜松研修室	西原、池上、金城、堀	1. 事業報告 2. 事業評価 3. 次年度以降について

6. 取組についての報告

取組1：多文化コンシェルジュ育成講座（ベーシックコース）

(1) 体制整備に向けた取組の目標

・高い日本語能力を有する外国人が、日本人と外国人市民との懸け橋のような存在になるために必要な日本語能力を習得し、多文化共生に資する人材になることを目標とする。

(2) 取組内容

・多文化コンシェルジュに必要な日本語でのプレゼンテーション能力、対外折衝能力、文章作成能力を習得する講座を開催する。また、日本人コミュニティの懸け橋として必要となる知識の習得と異文化理解を学ぶ機会を提供するものとする。

(3) 対象者

・市内外国人コミュニティのリーダーやN2、N1を有する外国人あるいは外国にルーツのある第2世代の若者等

(4) 参加者の総数 16 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

そのうちの日本語学習者数 13 人

【出身・国籍別内訳】

中国	1人	インドネシア	6人	・
韓国	人	タイ	人	
ブラジル	1人	ペルー	人	
ベトナム	3人	フィリピン	2人	
ネパール	人	日本	3人	

(5) 開催時間数(回数) 20時間 (全10回)

(6) 活動の具体的内容

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成27年6月27日(土) 10:30~12:00	1.5	ザザシティ中央館5F	8	多文化共生と多文化コンシェルジュの役割	多文化コンシェルジュに必要な日本語能力や技術力・情報収集力について学ぶ	堀 永乃	三浦理沙
2	平成27年7月4日(土) 13:30~15:00	1.5	クリエート浜松	4	自分史づくり	自己PRができるように、自分史を作る	藤田美佳	三浦理沙
3	平成27年7月11日(土) 13:30~15:00	1.5	ザザシティ中央館5F	7	情報収集・資料づくり	講義をする際に必要な情報の収集方法と資料づくりについて学ぶ	今村哲郎	三浦理沙
4	平成27年7月25日(土) 13:30~15:00	1.5	ザザシティ中央館5F	6	教案づくり	講義をする際に内容をどのように組み立てるのか、どう話すのかを学ぶ	増田由美	三浦理沙
5	平成27年8月1日(土) 13:30~15:00	1.5	グローバル人財サポート浜松研修室	5	電話でのコミュニケーション	電話をつかって、先方と予定や打合せのためのアポを取る、内容の調整を行う	鈴木淑恵	三浦理沙
6	平成27年8月8日(土) 13:30~15:00	1.5	シーポイント	4	ブログの書き方	魅力を伝えるツールとしてブログを活用できるように書き方を学ぶ	佐野 憲	三浦理沙
7	平成27年8月22日(土) 13:30~15:00	1.5	ザザシティ中央館5F	10	社会人マナー	日本社会において相手に失礼のないようにマナーを学ぶ	山下純乃	三浦理沙
8	平成27年8月29日(土) 13:30~15:00	1.5	ザザシティ中央館5F	13	文章作成①交渉するとき	交渉時に必要な日本語を学ぶ	増田由美	三浦理沙
9	平成27年9月5日(土) 13:30~15:00	1.5	ザザシティ中央館5F	7	文章作成②叙述する	様子や状態を叙述する日本語表現を学ぶ	増田由美	三浦理沙
10	平成27年9月12日(土) 13:30~15:00	1.5	ザザシティ中央館5F	8	講師の心得	講師になるときに必要な心構えについて学ぶ	長田治義	三浦理沙

(7) 特徴的な活動風景(2～3回分)

活動例①

【第3回 平成27年7月11日】

ネット情報の検索の仕方や資料の作り方、特に写真の撮り方や撮られ方について学んだ。自己PR用の写真撮影もして、コンシェルジュになっていく意識や意欲も高まったようだ。



活動例②

【第6回 平成27年8月8日】

「外国人ブロガーが地域の魅力を日本語で伝えられたら・・・」ということで、ブログを書くまでに必要な手続きと実際に写真を撮ってブログを書く練習を行う。母国に住む人たちに向けて地域の魅力を母国語で語るだけでなく、日本人も外国人ブロガーの生の声を得られ、お互いに地域の魅力やその感動を共有し合うことができるようにした。



(8) 目標の達成状況・成果

就学生や技能実習生が新たな受講者として参加したことは、『多様性』という意味で大きな成果であったと思う。内容も、非常に興味深く、各授業が非常に活気に満ちていた。特に、ブログの書き方の際には、外国人受講者の方々が実際にブログを立ち上げたことから、今でもそのブログを書くようになり、経済産業的な側面からも多文化コンシェルジュの担う役割の重要性に気が付くきっかけとなった。

(9) 今後の改善点について

多文化コンシェルジュの活躍がまだ十分に周知されていないことから、外国人受講者の数があまり伸びなかった。今後は日本語学校や国際交流協会にも推薦者を出してもらおうなどの協力が必要である。

取組2: 多文化コンシェルジュ育成講座(ステップアップコース)

(1) 体制整備に向けた取組の目標

・ベーシックコースでの学びを活かし、同国出身の後輩外国人に対してバイリンガルでの日本語指導ができる人材育成

(2) 取組内容

・バイリンガルで日本語指導ができる人材に必要な日本語能力と知識の習得。在住外国人のライフステージによって、どのような日本語が必要なのか、その日本語ができることでどのようなことができるようになるのか(Can-do)を考え、実践できるようにしていく。
また、プレゼンテーション能力を高め、効果的な講座運営ができるよう技術の向上を目指し、既に多文化コンシェルジュとして活躍している人にはリカレント教育になるようにする。

(3) 対象者

・ベーシックコース受講者や既に多文化コンシェルジュとして活躍している人等

(4) 参加者の総数 48 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

そのうちの日本語学習者数 11 人

【出身・国籍別内訳】

中国	2人	インドネシア	人	
韓国	人	タイ	人	・台湾 1人
ブラジル	3人	ペルー	人	・
ベトナム	4人	フィリピン	1人	・
ネパール	人	日本	37人	

(5) 開催時間数(回数) 15時間 (全 5 回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成27年9月26日(土) 13:30~16:30	3	ザザシティ中央館5F	18	日本語の教え方① ニーズ分析と内容設定	日本語学習者はどのようなニーズを持っているのか、ニーズ分析と内容設定について学ぶ	松尾 慎	三浦理沙 前田朝子
2	平成27年10月24日(土) 13:30~16:30	3	ふじのくに西部NPO活動センター	37	日本語の教え方② 学習者のQOL	日本語学習者のライフステージによって必要となる日本語表現や語彙が異なる。学習者のQOLを考えた日本語教育の内容と方法について考える	石井恵理子	三浦理沙
3	平成27年11月21日(土) 13:30~16:30	3	ザザシティ中央館5F	37	日本語の教え方③ 識字と漢字	漢字の楽しい学び方と教え方について学ぶ	新矢麻紀子	三浦理沙
4	平成27年11月28日(土) 13:30~16:30	3	ザザシティ中央館5F	11	会話コミュニケーション ロールプレイを考える	リアルにコミュニケーションが有効的に機能するロールプレイとロールカードの作成について実践を通して学ぶ	清 ルミ	三浦理沙
5	平成27年12月19日(土) 13:30~16:30	3	ザザシティ中央館5F	9	模擬授業	テーマにそって、グループごとに授業内容を発表する	西川寛之	三浦理沙

(7) 特徴的な活動風景(2~3回分)

活動例①

【第1回 平成27年9月26日】

バイリンガル指導者になることに向けて、必要な指導者としての姿勢を学ぶ。模擬授業に向けて「テーマや内容」を考えることを目標に、ワールドカフェ形式で参加者同士が日本語学習歴を振り返り、①日本語ができなかった当時に生活するために必要だった日本語能力や生活の知識は何か、②日本語ができるようになったら自分自身で何ができるようになるかのように幸せになっていったのか、③まだ日本語があまりわからない人のために何を伝えたらいいのかについて意見を出し合い、共有した。



活動例②

【第2回 平成27年10月24日】

「何のための日本語学習か」から日本語教育の在り方を問い直し、学習者のライフステージに沿った目標を定め、学習内容と方法を考える。さらに学習項目をどのような順序・時間配分で並べるか、どのような方法で学習を進めるのか、カリキュラムデザインについて学ぶ。それらを踏まえて、「どう教えるか」ではなく「何をするのか、何ができるようになるのか」、学習者が学んだことを実感できる活動の意義について実践的に学んだ。



活動例③

【第3回 平成27年11月21日】

「定住外国人にとっての文字と文字学習」をテーマに、文字学習支援について考えた。特に日本語学習者にとっての漢字学習は心理的ハードルが高かったり、難しくなかなか覚えられないという学習者に、いかに楽しく学べるよう、教室活動を工夫するのか、事例をもとに学ぶ。外国人のなかには「きれいに書く」ことが自己実現につながる学習者もいることや、漢字語が入った文章の読み書きができることでリテラシーの獲得を果たす外国人学習者もいることを知る。



(8) 目標の達成状況・成果

事業実施にあたり、浜松国際交流協会の後援や浜松市教育委員会の協力を得ることができた。そのため、既に通訳者や言語支援者として子どもたちの教育支援に携わっている方などのリカレント研修として参加を促すことができたことは成果であった。また総じて、本講座では大学生が参加していたことから、若い世代の外国人受講者(ベトナム人就学生やインドネシア人技能実習生)にとっては、受講者間の国際交流にもなったようだ。また、講座で同じグループになったことがきっかけで、大学生がベトナム人難民対象の日本語教室にボランティアに参加する動きもあった。このように本講座には社会教育的意義がもたらされた。

(9) 今後の改善点について

会場確保の関係で、会場を変更したため会場を間違えてしまった受講者がいた。模擬授業に向けて、出席者が減ってしまったことが残念。受講者に目標値を正しく伝え、彼らのモチベーションを下げることなく、講座を進められるようにしたい。

取組3:パイリンガルで学ぶ日本語教室

(1) 体制整備に向けた取組の目標

・多文化コンシェルジュによる外国人のための外国人による日本語教室を開講し、来日したばかりの外国人や日本語学習の機会に乏しかった外国人が、母国語で日本語と日本文化(習慣、労働観)を学び、日本社会への早期適応と言語能力向上による生活上への不安を軽減することを図る。

(2) 取組内容

・多文化コンシェルジュ(過去2年分を含む)の活躍の先として同国出身者で日本語能力が乏しい者に対して、母国語を活用した日本語学習の機会を提供する。内容としては、生活上に早期習得すべき日本語会話や表現を学ぶための「生活の日本語」、日常生活のなかで多々生じる異文化上のトラブルを軽減するための「日本の文化と習慣」、職場上で知っておくと得する社会人としての「マナーと労働観」など、いずれも学習者自らが学びたいと思っている学習内容とする。また、実際に日本人との日本語教師とバイリンガル教師が連携・協働することで、会話実践練習を日本人の日本語教師が、解説をバイリンガル教師がするなどの活動をした。

(3)対象者

・多文化コンシェルジュ、母国語で日本語を学びたいと思っている外国人市民

(4)参加者の総数 12 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

そのうちの日本語学習者数 10 人

【出身・国籍別内訳】

中国	人	インドネシア	人
韓国	人	タイ	人
ブラジル	6人	ペルー	人
ベトナム	人	フィリピン	6人
ネパール	人	日本	人

(5) 開催時間数(回数) 33. 5時間 (全 19回)

(6) 取組の具体的内容

○ブラジル人を対象とした日本語教室

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成27年6月6日(土) 10:00~12:00	2	アラッセ	3	自己紹介	職場での自己紹介をイメージして、名前、住所、在住年数、趣味などを書いて自己紹介を行った。	金城アイコ	三浦理沙
2	平成27年6月13日(土) 10:00~12:00	2	アラッセ	4	はがきを書きましょう	手紙や書類に事務んの住所を漢字で書けるようにした。	金城アイコ	三浦理沙
3	平成27年6月20日(土) 10:00~12:00	2	佐鳴台協働センター	5	敬語とカジュアル会話	職場での会話をテーマに、上司と同僚との会話の違いを練習した。	金城アイコ	三浦理沙
4	平成27年7月4日(土) 10:00~12:00	2	佐鳴台協働センター	5	簡単な文章づくり	動詞の時制変化に注意しながら、簡単な文章を作れるようにした。	金城アイコ	三浦理沙
5	平成27年7月11日(土) 10:00~12:00	2	佐鳴台協働センター	2	所在とあげもらい	求職面接のときに聞かれることを想定して、応えられる練習をする。	金城アイコ	三浦理沙
6	平成27年7月25日(土) 10:00~12:00	2	佐鳴台協働センター	1	動詞	動詞の時制変化の復習	金城アイコ	三浦理沙
7	平成27年8月1日(土) 10:00~12:00	2	佐鳴台協働センター	4	動詞の丁寧形	です・ます形で会話ができるよう、短文を作って書いたり、発表したりした	金城アイコ	三浦理沙
8	平成27年8月8日(土) 10:00~12:00	2	佐鳴台協働センター	2	オノマトペ	ポルトガル語で説明をしながら、日本でよく聞くオノマトペを練習した。	金城アイコ	三浦理沙
9	平成27年8月22日(土) 10:00~12:00	2	佐鳴台協働センター	2	オノマトペ	場面によって同じことばを使い分ける練習をする	金城アイコ	三浦理沙
10	平成27年8月29日(土) 10:00~12:00	2	佐鳴台協働センター	1	買い物の場面	これまでのまとめを行い、買い物の場面を想定して会話練習を行った。	金城アイコ	三浦理沙

○フィリピン人を対象とした日本語教室

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
----	------	-----	----	------	--------	------	------	------

1	平成27年5月23日(土) 14:00~15:30	1.5	グローバル人材サポート浜松研修室	6	一日の流れ	一日の一連の動作を表記できるようにする	堀 永乃	指導補助: 鈴木淑恵 運営補助: 杉本里美
2	平成27年5月30日(土) 14:00~15:30	1.5	グローバル人材サポート浜松研修室	6	説明する	イラストカードを見て、感情を説明し、理由を話すことができる	寺田アリス	鈴木淑恵 杉本里美
3	平成28年1月9日(土) 10:30~12:00	1.5	グローバル人材サポート浜松研修室	3	ニーズ調査	何を学びたいのか、どうして学びたいのかを選択させ、学習意欲を高める	寺田アリス	鈴木淑恵 三浦理沙
4	平成28年1月16日(土) 10:30~12:00	1.5	グローバル人材サポート浜松研修室	3	自分のこと	自己紹介カードを書く	増田由美	鈴木淑恵 三浦理沙
5	平成28年1月23日(土) 10:30~12:00	1.5	グローバル人材サポート浜松研修室	3	自分のこと	自分のことを5W1Hで正しく伝えられる練習を行う	増田由美	鈴木淑恵 三浦理沙
6	平成28年2月6日(土) 10:00~12:00	1.5	グローバル人材サポート浜松研修室	5	病院で①	病院の流れ(受付⇒診察⇒薬受取⇒会計)の確認と簡単な表現	寺田アリス	鈴木淑恵 三浦理沙
7	平成28年2月13日(土) 10:30~12:00	1.5	グローバル人材サポート浜松研修室	4	日本の学校について知る(入学前に必要な日本語)	入学説明会に出席するにあたり、必要な学校情報と日本語を学ぶ	増田由美	鈴木淑恵 三浦理沙
8	平成28年2月15日(月) 10:30~12:00	1.5	グローバル人材サポート浜松研修室	3	病院で②	自分の症状と身体の部位、処方箋・薬の説明書がわかるようにする	鈴木淑恵	寺田アリス 三浦理沙
9	平成28年2月20日(土) 10:30~12:00	1.5	グローバル人材サポート浜松研修室	4	一日の流れと漢字	朝起きてから昼食までの一連の流れの動詞の表現と漢字表記を学ぶ	堀 永乃	鈴木淑恵 三浦理沙

(7) 特徴的な活動風景(2~3回分)

活動例①

【第8回 平成27年8月8日】

オノマトペの使い方について学んだ。よく耳にするのだが、何を表しているのかわからなかったとのことで、具体的な使用例を説明しながら表現を学ぶ。この内容は、当初講師が予定していたものではなく、学習者からの希望で実施となった内容である。つまり、バイリンガル講師だったからこそ学習ニーズを的確に把握することができ、その対応が可能となった。



活動例②

【第6回 平成28年2月13日】

学習者が自ら学びたい内容を選択し、流れを決めるという方針で進めてくるなかで、あるフィリピン人学習者から「来週の入学説明会が不安だ」という声があがった。そこで、他の学習者からも同様の声が出たため、急きょ内容を変更して、入学説明会における知っておいた方がいい日本の学校ルールと入学説明会の流れ、日本語表現を学んだ。



(8) 目標の達成状況・成果

母国語で学習ニーズを直接聞くことで、日本語学習者のニーズをより深く、また的確に把握することができた。特に、職場内でのコミュニケーションでよく耳にするオノマトペは、通常の地域の教室ではなかなかテーマに上がらなかったり、入学説明会時に必要な日本語を学ぶことができたことは、学習者の目標達成につながり、効果的な取組であった。

(9) 今後の改善点について

ブラジル人児童が学習支援をしている施設での開催が、子どもの数の増加に伴い部屋が狭くなったため開催できなくなったため、急きょ会場移動が必要となった。今後は開催時に状況を想定して、通いやすい会場の設定が必要である。フィリピン人の女性たちは子育て中の方が多く、子どもの体調や学校行事によって欠席が続くことがある。内容は、学習者ニーズに合わせることができても、連続講座や季節柄受講参加者が変動することがあるため開催日時を臨機応変に対応できるようにしておくことが必要。

取組4：初級日本語カリキュラム案の開発

(1) 体制整備に向けた取組の目標

・来日してから日本語を勉強した経験と日常生活や職場等で体験してきた経験を活かして多文化コンシェルジュが「こうだったらよかった」と思える日本語学習のカリキュラムを、当事者と多様な支援者・機関と共に開発し、外国人のための初期日本語の習得の一助となる。

(2) 取組内容

・多文化コンシェルジュとして活躍している外国人によると、来日初期に必要なだった日本語と従来の日本語教室で学べるということが異なるという。こうしたことから、彼らの母国語を活用しながらも、来日初期に必要とされる日本語のうち、緊急性や必需性等を考慮して、「生活者としての外国人」のための日本語カリキュラムをベースに、母国語を活用した日本語カリキュラム(案)を作成する。

①カリキュラムは、文化庁カリキュラム案のうちの生活上の行為から選抜したものと外国人学習者が自ら考案した内容を加えたもので的確に構成され、社会的な汎用性をもたらしていくことが可能なものとなるように、様々な社会事象を反映させながらカリキュラムの開発を行う委員会を開催する。

②委員会の開催前に、専門家による評価等に関する講習を受け、外国人指導者はカリキュラム案開発のための指導者としての基礎を学ぶ。

③また、外国人学習者が委員会での討論や意見交換ができるよう、とりまとめに必要となる日本語について日本語指導を行う。

④さらに、委員はカリキュラム案の開発に向けて、来日したての外国人のニーズを把握し、彼らを日本社会への適応をスムーズにしていけるように、外国人が来日初期段階に接触されることが想定される機関や人物からのヒアリングなどの情報収集を行い、コミュニティとの接点を深める。

⑤カリキュラム案の作成とともに、「バイリンガルでの初期日本語カリキュラム(案)活用のための手引書」を作成し、より活用しやすいものとなるよう努める。

(3) 対象者

・多文化コンシェルジュ、日本語教育の専門家等

(4) 参加者の総数 9 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

そのうちの日本語学習者数 9 人

【出身・国籍別内訳】

中国	1人	インドネシア	人	
韓国	人	タイ	人	・モンゴル 1人
ブラジル	3人	ペルー	人	・イギリス 1人
ベトナム	人	フィリピン	1人	・
ネパール	人	日本	3人	

(5) 開催時間数(回数) 27時間 (全9回)

(6) 活動の具体的内容

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成27年5月29日(金) 13:30~15:30	2	グローバル人財サポート浜松研修室	8	趣旨説明と事業計画	多文化コンシェルジュの意義と役割について	堀 永乃	
2	平成27年5月29日(金) 15:30~16:30	1	グローバル人財サポート浜松研修室	8	多文化コンシェルジュ	多文化コンシェルジュの意義と役割について	進行:堀永乃	
3	平成27年6月26日(金) 13:30~15:30	2	グローバル人財サポート浜松研修室	5	外国人の日本語教育	来日後に苦労した経験を紹介し外国人が必要最低限の日本語コミュニケーションが何かを考えた	モライス アレシャンドレ	
4	平成27年6月26日(金) 15:30~16:30	1	グローバル人財サポート浜松研修室	5	バイリンガル指導について	外国人の日本語教室へのソフトランディングについて	進行:モライスアレシャンドレ	

5	平成27年7月17日(金) 13:30~15:30	2	グローバル人財サポート浜松研修室	6	日本語能力の評価	日本語能力の評価はどのように評価されるのが望ましいのか、ポートフォリオについて学ぶ	川端一博	
6	平成27年7月17日(金) 15:30~16:30	1	グローバル人財サポート浜松研修室	6	ポートフォリオ	自身の学習歴と評価	進行:川端一博	
7	平成27年7月17日(金) 16:30~17:30	1	グローバル人財サポート浜松研修室	6	委員会のまとめ	委員会上でわからなかった日本語の表現とこれからの目標設定について	堀 永乃	
8	平成27年9月26日(金) 9:30~11:30	2	ザザシティ中央館5F	6	日本語教育の社会的評価	「自分と浜松をともにハッピーにする日本語教育」をテーマに日本語教育の社会貢献について意見交換を行った	松尾 慎	
9	平成27年9月26日(金) 11:30~12:30	1	ザザシティ中央館5F	6	日本語教育の社会的評価	日本語教育の社会的責任について	進行:松尾慎	
10	平成27年9月25日(金) 13:30~14:30	1	ザザシティ中央館5F	6	委員会のまとめ	委員会上でわからなかった日本語の表現とこれからの目標設定について	堀 永乃	
11	平成27年10月24日(土) 9:30~11:30	2	ふじのくに西部NPO活動センター	8	QOLと日本語能力	ライフコースを意識した日本語支援について、カリキュラム案から必要事項の洗い出しを行った	石井恵理子	
12	平成27年10月24日(土) 11:30~12:30	1	グローバル人財サポート浜松研修室	8	QOLと日本語能力	ライフコースを考慮した優先的学習項目の確認	進行:石井恵理子	
13	平成27年10月23日(金) 13:30~14:30	1	グローバル人財サポート浜松研修室	8	委員会のまとめ	委員会上でわからなかった日本語の表現とこれからの目標設定について	堀 永乃	
14	平成27年11月20日(金) 13:30~15:30	2	グローバル人財サポート浜松研修室	5	識字と漢字	リテラシーと社会参加をテーマに、識字学習の必要性を改めて考える	新矢麻紀子	
15	平成27年11月20日(金) 15:30~16:30	1	グローバル人財サポート浜松研修室	5	識字力と自己実現	書く能力について考え、何が書けることが初期レベルでも必要なかをリストをあげた	進行:新矢麻紀子	
16	平成27年11月20日(金) 16:30~17:30	1	グローバル人財サポート浜松研修室	5	委員会のまとめ	委員会上でわからなかった日本語の表現とこれからの目標設定について	堀 永乃	
17	平成27年12月18日(金) 13:30~15:30	2	グローバル人財サポート浜松研修室	6	初級カリキュラムづくりとCan-do	本当に役立つ授業とは何か、経験者ならではのカリキュラムづくりを行う	西川寛之	
18	平成27年12月18日(金) 15:30~16:30	1	グローバル人財サポート浜松研修室	6	カリキュラム案づくり	「子育て」をテーマにカリキュラム案を作成する	進行:西川寛之	
19	平成27年12月18日(金) 16:30~17:30	1	グローバル人財サポート浜松研修室	6	委員会のまとめ	委員会上でわからなかった日本語の表現とこれからの目標設定について	堀 永乃	
20	平成28年1月22日(金) 13:30~15:30	2	グローバル人財サポート浜松研修室	6	コースデザインとシラバス作成	日本語を学習して、何ができる・何がわかるのか、前回のカリキュラムを学習項目をさらに細かく考えシラバスを作成	金田智子	
21	平成28年1月22日(金) 15:30~16:30	1	グローバル人財サポート浜松研修室	6	シラバス作成	シラバスを作成し、項目の確認と精査	進行:金田智子	
22	平成28年1月22日(金) 16:30~17:30	1	グローバル人財サポート浜松研修室	6	委員会のまとめ	委員会上でわからなかった日本語の表現とこれからの目標設定について	堀 永乃	
23	平成28年2月19日(金) 13:30~15:30	3	グローバル人財サポート浜松研修室	7	カリキュラム開発のまとめとシンポジウム企画	カリキュラム開発のこれまでのまとめ	堀 永乃	
24	平成28年2月19日(金) 15:30~16:30	3	グローバル人財サポート浜松研修室	7	事業評価	カリキュラム開発に携わることで得た知見から来年度の事業目標を設定する	進行:堀永乃	

(7) 特徴的な活動風景(2~3回分)

活動例①

【第5回 平成27年10月24日】

外国人が初期日本語で優先的に学ぶ必要があると考えた項目と日本語教師が必要があると考えた項目とに差異があったことから、多文化コンシェルジュの当事者としての経験や知識がカリキュラムを構築するうえで重要であることを認識した。特に、外国人のライフコースとQOLを考えて、内容を組み立てる必要があることを共有した。



活動例②

【第8回 平成28年1月22日】

標準的なカリキュラム案に掲載されていない「子育て」に着目し、子育てをするうえで具体的にどんなことが日本語でできるようになることが理想なのか、その学習項目について考えた。7回目の際に、メニュー表のように項目が様々あると学習者がカスタマイズした日本語学習ができ、学習意欲も高めることができるのではないかということが議論された。それを受けて、具体的な行為を細分化する作業をした。



(8) 目標の達成状況・成果

外国人当事者として委員自らが考え、意見を交わし、目標に向かっていくことができた協働の姿勢はとても大きな成果であったと思われる。これまで、日本人が想定して日本語教育を考えてきた地域にとっては、初めての試みであったが、当事者の「声」が聴けたことは有意義であった。

(9) 今後の改善点について

多国籍の委員を設定すると、仕事や家庭の事情から参加・不参加がバラバラと出てきてしまうこと、また回数が月に1回程度ではたとえ3時間の会議であっても議論がまとまりきれないことがあった。今後は事前課題を提示するなどの工夫を行い、スタート時から同じ目標で議論できるような場づくりが必要だと思われる。

取組5：多文化コンシェルジュによる浜松の未来づくりシンポジウム

(1) 体制整備に向けた取組の目標

・多文化コンシェルジュが浜松市および浜松市民に対して浜松の未来のために必要なこと、自身ができることは何かを提言するシンポジウムを開催し、広く市民に対して「日本語教育を地域全体の課題として考えることと多文化共生」を意識啓発していく。

(2) 取組内容

・多文化コンシェルジュの企画運営によるシンポジウムを開催し、本取組の成果としていく。具体的には、在住外国人支援の専門家を講師に迎えた基調講演と、取組4の活動状況報告、そしてパネルディスカッションを行った。また、これまでの成果から外国人市民として、当事者として、外国人側が日本社会において「何をすべきか」を提言していくものとする。また、これらの一連の活動を通して静岡県西部地域の外国人リーダーのネットワーク構築を目指す。さらに、日本語能力を有する外国人人材が地域を豊かにしていく活動を発信することで、参加者に対して、外国人の社会参画のためには、地域が総括的に日本語教育に携わる必要があること、さらに外国人市民が地域の文化創造も担っていることなどについて理解を深めていただく。
なお、本目的を達成するために登壇者と企画者による企画会議を開催し、多文化共生や日本語教育の業界外の参加者への意識啓発を効果的に行うための内容運営協議を行う。

(3) 対象者

・外国人市民、日本語学習支援者、多文化共生に興味のある方

(4) 参加者の総数 42 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

そのうちの日本語学習者数 12 人

【出身・国籍別内訳】

中国	2人	インドネシア	1人
----	----	--------	----

韓国	人	タイ	人	・モンゴル 1人 ・ ・ ・
ブラジル	4人	ペルー	人	
ベトナム	2人	フィリピン	2人	
ネパール	人	日本	30人	

(5) 開催時間数(回数) 3時間 (全1回)

(6) 活動の具体的内容

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成28年2月27日(土) 13:30~13:50	20分	ザザシティ中央館5Fギャラリー1		カリキュラム開発委員会による「生活者としての外国人」のための日本語カリキュラム開発の報告	文化庁の「生活者としての外国人」のための日本語教育カリキュラム案のなかに、「子育て」をテーマとした内容をより細かく載せていくことの必要性を報告。	宮本ルーカス	三浦理沙 鈴木淑恵 杉本里美 金城アイコ
2	平成28年2月27日(土) 13:50~15:00	70分	ザザシティ中央館5Fギャラリー1		人の多様性を活かした浜松の未来づくり	多文化共生は、人口減少と産業振興の課題を解決する取組であり、外国人も定住しやすい街こそが日本人にとって持続可能な地域となることを提唱。	田村太郎	三浦理沙 鈴木淑恵 杉本里美 金城アイコ
3	平成28年2月27日(土) 15:10~16:30	80分	ザザシティ中央館5Fギャラリー1		私たちの社会参画	今年度の多文化コンシェルジュ講座の修了者と既に自国の文化紹介や日本と母国との文化の懸け橋になっている外国人材の代表者をパネリストに迎え、外国人住民にとっての「社会参画」について意見交換と発表を行った。	堀 永乃 ・宮本ルーカス ・ニャムジャウ ムンフバト ・田島裕子 ・陳 鵬 ・寺田ジョセリン ・村上レジナ ・スニョト インドラ プライットノ ・ダオティン タンマイ ・グエン トウオン ティン	三浦理沙 鈴木淑恵 杉本里美 金城アイコ

(7) 特徴的な活動風景(2~3回分)

活動例①

【基調講演】

なぜ人の多様性を活かすことが必要なのか—OECD諸国の人口変動と対処のグラフをもとに、地域創生施策の具体的な取組として多文化共生施策が必要で、社会インフラの整備の一つとして多文化コンシェルジュに期待がかかることを提唱された。



活動例②

【パネルディスカッション】

外国人当事者が来日後、日本語ができなくて困ったこと・恥ずかしかったこと、どのくらいの日本語ができるようになるといいのか、まるで自分が日本人みたいだと思ったこと、これから日本でどんな人になっていきたいと思っているのか、といったエピソードを発表し、外国人にとっての日本語学習は、ライフステージに沿った自己実現のためであることに理解を深めた。



(8) 目標の達成状況・成果

参加者は浜松市だけでなく、長野県、東京都、つくば市、岐阜県といった遠方からの参加者もあり、湖西市、磐田市、掛川市、菊川市、袋井市というように、浜松市近隣地域からも多数いらしていた。また参加者アンケートによると、国際交流協会からの案内をきっかけに情報を入手していたようで、他市国際交流協会との情報共有と連携を図ることができた。

また、全体の評価については、89%の方が内容に大変満足しており、基調講演・パネルディスカッション共に評価が高かった。理由としては、外国人のリアルな思いや気持ちを知る機会となったことが大きかったようである。さらに、外国人に対する日本語教育についても理解を深めることができたという方が56%いたことから、本事業が果たした役割は大きかったと思う。

(9) 今後の改善点について

非常に濃い内容であったものの、2月は様々なところで講演会やイベントが続くため、申込みがあっても不参加になってしまった方がいたのが残念。今後は、もっと早い時期に開催するなどの工夫が必要である。

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

浜松市及び近郊に在住する高い日本語能力を有する外国人が、自国出身者コミュニティのリーダーとして日本人住民との良好な関係性を構築することのできるつなぎ役・懸け橋として活躍することで、双方の相互理解と交流を深化させて、日本人も外国人も共に行う「多様性を活かした持続可能な社会づくり」の一助となることを目的とする。また、在住外国人の多様なニーズに合う日本語教育の充実に向けて、多様な機関と共に体制整備を行う。

(2) 目的・目標の達成状況

- ・浜松国際交流協会や磐田国際交流協会、静岡県国際交流協会など近隣の国際交流協会と協力体制を得られ、情報周知に連携が図れたことがよかった。
- ・シンポジウムの参加者には企業関係者も多く、ダイバーシティ戦略として在住外国人の有するチカラを活かそうと考える企業が増えてきたように感じられた。
- ・外国人学習者の実際のニーズと日本語教師が想定するニーズの違いが明らかになったことについては、調査母数がまだ少ないながらも、外国人当事者の生の声を直接聞くことができ、日本語教師に気づきを与え、さらに先輩外国人として後輩外国人が必須不可欠である日本語や優先度の高い日本語コミュニケーション能力は何かを把握することに繋がり、効果的な結果を得ることとなった。さらに、こうした調査を委員が自ら行ったことで、カリキュラム案の策定についても委員自らから積極的な発言と行動を促すことができた。このことは、高い日本語能力を有する外国人が、多文化コンシェルジュとして地域の後輩外国人に対する相互互助関係を築いていくうえで、重要な取り組みになると考えられる。

(3) 地域における事業の効果、成果

多文化コンシェルジュの講座自体に申込みをする外国人は、母国と日本とのつながりを高めたい・役立ちたいという自己の社会的評価を求めるからであることがわかる。このことは、「多文化コンシェルジュ講座」が中級以上の外国人日本語学習者に対するモチベーションを高める効果的な事業であり、人の多様性を活かしていくための基礎的な環境整備には欠かせない取組であることが明確となった。

そして、カリキュラム開発委員会【取組4】が果たした成果としては、①初期日本語の学習が必要な外国人への日本語学習支援方法としては、直説法での日本語指導ではなくバイリンガル指導によるソフトランディングが必要であること、②在住外国人の日本語学習歴と自己評価を分析すると、日本語学習のきっかけと必要性を感じる多くの学習者が「子育て期」にあることから、文化庁が提示している「生活者としての外国人」のための日本語教育カリキュラムには、「子育て」にまつわる項目と「人付き合い」の項目をより充実させる必要があること、③来日間もない在住外国人にとって、必要性の高い学習項目には①情報として提供されたいもの（収集したいもの）と②日本語でのコミュニケーションが必須の場面によるものと2種類に分類することができ、日本語教室では、日本語コミュニケーション指導と単なる情報提供（母国語でも可能）として指導方法を分ける必要があることも明確となった。これは、今後日本語を学ぼうとする外国人に対して、彼らのモチベーションを維持させ、自発的に学び続けることのできる環境整備に役立つと考えられる。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果

- ・多文化コンシェルジュの活躍の場の創出として、中部協働センターとの協働事業を企画することができた
- ・講師に多様な背景の方々を迎えたことで、外国人が日本語能力を高め社会参画しようとしていることを彼らや異業種の方に伝えることができた
- ・広報活動に地域の国際交流協会や市民活動センターの協力を得られた

(5) 事業実施に当たったの周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

多文化コンシェルジュの活躍の場の創出については、グローバル人材サポート浜松のFacebookやホームページ上で多文化コンシェルジュを公開紹介していることから、促進を図っていく。「多文化コンシェルジュ名鑑」<http://www.globaljinzai.or.jp/concierge.html> 本事業についても同様に情報提供を行い、理解を深め、他都市でも汎用的に開催できるようアプローチしていく。

(6) 改善点、今後の課題について

- ・本年度の事業で地域の日本語教育の体制整備はどの程度進めることができたか、次の①～③について記載します
- ①現状：多文化コンシェルジュの育成については、そのスキームを確立することができた。また、カリキュラム開発委員会にて、初期日本語の学習支援において必要な視点とカリキュラム案の提示を行うことができた。
- ②今後の課題：「子育て」の学習項目（生活上の行為）については、まだ十分に議論されておらず、具体的な案の一つにとどまっているため、汎用性は低いことから、内容をより精査し、創り上げていく必要がある。
- ③今後の課題解決に向けた活動予定：来年度は多文化コンシェルジュの1期生を中心に「子育て」上の日本語教育について議論を深めて、メニュー表のように学習項目をあげられるようにし、バイリンガル指導者による教室にて試験的な実施を図っていきたい。

(7) その他参考資料

- ①多文化コンシェルジュ講座チラシ（ベーシック、ステップアップ、シンポジウム）
- ②シンポジウム当日配布資料
- ③シンポジウムアンケート結果
- ④学習優先度ニーズ調査＜コンシェルジュ・生活者・技能実習生＞
- ⑤初期日本語カリキュラム委員会報告書
- ⑥新聞掲載記事

